

『女性アスリートに学んだこと』

朗読者 有森 裕子

01

私はマラソンランナーとして二度のオリンピックに出場し、幸運にも、メダルを手にすることができました。今日は私が女性アスリートから学んだことについてお話します。

10

私の郷里には、偉大な女性アスリートがいます。女子陸上界のパイオニア、人見ひとみ絹江きぬえさんです。

人見さんは、日本人女性として初めて、オリンピックでメダルを獲得した陸上界の先駆者です。私と同じ岡山市の出身で、私の祖母は人見さんが通っていた女学校の後輩でした。

15

女性がスポーツをすること自体、理解が得られない時代。ましてや、陸上競技をする女性なんて珍しいだけの存在でした。人見さん自身、「陸上を始めた当初は、まわりから冷たい視線を浴びた」といいます。「女性が人前で太ももをさらすな」とか、「日本女性の恥だ」といった手紙が実家に送り付けられたこともあったそうです。

20

それでも人見さんは走り続けました。「いつか私の後に続く女性たちが普通に活躍できる日が来る」と信じて。

そして、一九二八年（昭和三年）、アムステルダムオリンピック八百メートルで見事に銀メダルを獲得したのです。奇しくも、私がバルセロナオリンピックのマラソンで銀メダルを獲得した

のと同じ八月二日のことでした。

九十年程前。逆風の中、トラックを駆け抜けた女性アスリートの姿に、私はずっと励まされ、勇気づけられてきました。あきらめず、やり続けてさえいれば、必ずゴールは見えてくるし、たどり着くはずです。

私たちは、職場や学校、家庭で、悩むことや迷うことも多いと思います。こんなに頑張っているのに何で理解してもらえないのだろうか、とあきらめたりします。

それでも多くの先人たちは、努力を重ねて、私たちに道を拓いてくれました。その道を閉ざさないためにも、女性が活躍できる場がもっと広がっていくことを願っています。